

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100112
法人名	社会福祉法人ともの家
事業所名	ともの家 この道
所在地	松山市溝辺町甲93-1
自己評価作成日	平成25年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム全体が木の温もりと優しさに包まれており、自然の優しさに触れながら生活できる環境にある。皆が集うリビングには、対面式のキッチンを取り入れ、常に入居者と職員、いわゆる住民の談笑の場となっている。プライバシーを尊重し、日々穏やかに、安心した生活を送っています。男性3名女性6名のグループホームです

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●前回の外部評価実施の際には、「家族アンケート」へのご家族の協力が、思いの外少なかったことを受けて、管理者は、改めてご家族とのかかわり方を振り返ってみられた。事業所では、ご家族との信頼関係を築く取り組みとして、その後、「今までやってきたことを、もっと丁寧に取り組む」ことに心がけられた。ご家族の来訪時には、職員は勿論のこと、管理者もできる限りご家族とコミュニケーションを図るよう取り組まれた。今回の外部評価実施の際には、すべてのご家族がアンケートに協力くださっており、管理者は、ご家族との関係作りの大切さを実感する機会にもなったようだ。

●月に一度「食のイベント」として、「食事が変わったことをやってみよう」「外に出て食事をしよう」と取り組まれた。事業所の中庭で、焼きそばを焼いて青空の下で食事を楽しまれたり、お好み焼きの具材をすべてミキサーにかけてから、ふわふわになるように焼いて、ミキサー食の方もみなと同じものを食べられるように工夫された。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ともの家 この道

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

吉田 真紀子

評価完了日

平成24年 12月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎月の職員会議等で理念の共有をし、それに基づき、年間、月間の目標をたて実践につなげている	
			(外部評価) 法人の理念である「ノーマライゼーションの推進」に基づき、年間目標と月間目標を立てて、理念の実践に向けて取り組まれている。今年度の目標のひとつに、利用者「一人ひとりに合わせたケアをおこなう」と掲げて、すべての職員で話し合いながら「ふるさと訪問」や「趣味・嗜好・個性を尊重する」支援に取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 法人開催のロビー展とバザーを定期的に行い、地域の方との交流を計っている。また、散歩や買い物の他に、町内の行事に参加し、日常的に地域と交流している。春、地域の公園を借り、一人サーカスの道化公演をし、地域の皆様に好評だった	
			(外部評価) 地域の「夏祭り」や「盆踊り」には、利用者と職員が一緒に参加して楽しまれたり、近くの公園等の「地域の清掃」には、利用者と管理者が参加し、地域の方達と一緒に活動しながら、事業所や認知症についての理解がさらに広がるよう取り組まれている。法人で年4回行う「ロビー展とバザー」は、地域の方が楽しみにされている恒例行事となっており、現在は、案内しなくても、テントの準備をしている様子やロコミ等で、多くの地域の方が集まって来られる。定期的に、「紙芝居」をしてくださる方や「お花クラブ」の講師、「ピアノ演奏」等のボランティアの訪問もある。	今後は、「地域に住む職員と利用者で地域行事に参加」することや、これまでは、バザー等の活動が主だった「地域交流委員が、地域活動に参加する」等して、地域とのつながり作りに取り組むことを計画されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症啓発活動の一環として、地域包括支援センター、民生委員、GH職員協同で人形劇を作り、公民館や大学の他に、日赤や中学校などでも観て頂いた	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 今年度の事業所の取り組みを報告し、協力を要請した。参加者との意見交換をし、そこで出た意見を職員会議で取り上げ、再度確認しサービスの向上にいかすように努めている</p> <p>(外部評価) 会議は、併設する小規模多機能事業所と合同で開催されている。会議では、各事業所の活動報告を行った後、参加者でフリートークをされている。外部評価後の会議では、評価結果を報告して、今後の取り組みについて説明をされた。現在は、民生委員の方に参加していただけるように、都合等を聞きながら会議日時を決めておられる。又、ご家族の都合等を考慮して2名の方のみに案内をされている。管理者は、「会議がどのようなものか知らないご家族も多いのではないかと感じておられ、今後は、すべてのご家族に会議の目的や内容等を知ってもらえるような取り組みや、参加につながるような働きかけ等も工夫されてみてほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域のグループホーム交流会を年2回開催し、運営推進会議同様必ず出席していただき協力関係を築いている。また、法人の職員研修会にも参加して頂き、貴重な意見や感想を頂いている</p> <p>(外部評価) 11月の運営推進会議では、市の担当者の方からノロウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を行うよう、アドバイスをいただいた。成年後見制度を利用している利用者には、保佐人が定期的に訪問してくださっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内の研修は基より職員全員が正しく理解しており拘束のないケアを実践している</p> <p>(外部評価) 日中、玄関は施錠されていない。利用者がそわそわし始めたり、ご家族の名前を呼ぶ等、落ち着かれない行動等が見られる時は、職員がそばで過ごすようにされている。介護度が重度でベッドで過ごす時間が長い利用者の方は、転落の心配もあり、ご家族からの希望もあって、現在、ベッドの周りを柵で囲っておられた。管理者は、「安全第一のため、柵を外すことは難しい」と話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修で学習し職員間でも常に話し合い相談しあえるようにしている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人内研修を行い学習する機会を設けた。他に外部研修の参加学習も積極的に奨励している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時は、施設見学や体験入所などを勧め、時間をかけて契約に関する説明などを行い慎重に対応している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者やご家族の意見や要望はそのつどお聞きし、職員間で話し合い運営に反映させるよう努めている (外部評価) 前回の外部評価実施の際には、「家族アンケート」へのご家族の協力が、思いの外少なかったことを受けて、管理者は、改めてご家族とのかかわり方を振り返ってみられた。事業所では、ご家族との信頼関係を築き取り組みとして、その後、「今までやってきたことを、もっと丁寧に取り組む」ことに心がけられた。ご家族の来訪時には、職員は勿論のこと、管理者もできる限りご家族とコミュニケーションを図るよう取り組まれた。今回の外部評価実施の際には、すべてのご家族がアンケートに協力くださっており、管理者は、ご家族との関係作りの大切さを実感する機会にもなったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月開いている内部研修や職員会議等で、職員からでた意見や提案を積極的に取り上げ運営に反映させている	
			(外部評価) 今年度は、職員が一丸となって、利用者の「拘縮予防」に取り組まれている。「足こぎ車イス」を購入して、歩くことが難しい方がご自分でペダルを漕ぎ移動できるようになったり、又、理学療法士のアドバイスを受けながら、尖足気味だった利用者にマッサージ等を継続して行う等して取り組み、状態が改善された事例がある。そのような取り組みを法人が開催する「実践研究発表会」時に報告をされている。職員の提案からこの一年ほど、朝は主食を芋粥にして、自然排便を促すよう試しておられ、利用者によって効果に違いがあるようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得者に対しては資格手当がつき、法人に貢献した者には、それなりの処遇があり、各自が向上心を持って働ける職場である	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修や毎月の内部研修の実施、外部研修を奨励援助し、個人の資格取得も応援している。年度初めに、事業所ごとに取り組む課題を決め、実践研究発表を行い、職員のスキルアップにつなげている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内の研修会に同業者へ案内し参加していただいた。地域のケア会議やグループホーム交流会で意見の交換を行い交流をはかっている。また、県外の施設へ研修に行かせて頂いた	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居と同時に全職員、ご家族でケアカンファレンスを行いご本人の声をできるだけ詳しく傾聴し、安心を確保するための関係づくりに努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ケアカンファレンス以外でも、こまめに連絡を取り信頼関係が築けるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族の思いを受け止め、まず必要としている支援を見極め対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、日常の生活が学習の場となっている。言葉、表情、行動など触れ合いの中から学び支えられていることを感謝している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 当法人は、ご家族をケアパートナーと位置付けている。双方からご本人を支えていく関係を築いている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 日々の話しかけの中に、馴染みの名前や地名を意識して取り入れ、友人や知人の訪問も歓迎し、美容室は、行きつけを利用している (外部評価) 昨年利用者個々の「ふるさと訪問」に取り組まれている。利用者一人ひとり個別に支援されており、職員とご家族も一緒に出かけるよう計画されている。「以前の勤務先」や「お墓参り」等、利用者の希望に沿いながら計画をされていたが、ご家族の体調不良等もあって実現に至っていない方もあった。事業所では気候が良くなったら、再度、計画して、すべての利用者へ支援できるよう、取り組みたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共有の場所にソファや暖炉があり、それぞれが集えるようにしている。気の合う仲間を自室に招いたりされている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が亡くなった後も、ご家族との連絡は途絶えないように行事の案内をしたり、命日には、必ず電話かご自宅に訪問させていただいている。法事の案内を頂いた	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人、またはご家族にお話を聞き、その思いや願いを把握するように努めている。集めた情報は、職員間で共有しケアプラン立案にいかしている。ケアプラン更新時には、アセスメントの見直しをしている (外部評価) 入居時、ご家族には、「ご本人の生活歴、馴染みの店、馴染みの場所、友人、行きたいところ、頼りにしている人」等の情報を「これまでの大切な人生史」の様式にできるだけ詳しく書いていただけるよう、お願いされている。前回の外部評価を受け、アセスメントを利用者個々の担当職員が、年1回、見直すようにされた。アセスメントの見直しや、毎月のご家族への手紙等「利用者一人ひとりの担当職員に任せる」ことで、より利用者を知ることにつながっているようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの背景をできるだけ詳しく知り、ケアプラン見直し時に、これまでの経過を把握し、新しく得た情報を加えるようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた暮らしをしていただいている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日々のケアの中での気づきなどを、職員間で出し合いご家族と相談しながら、何が必要かということを考えケアプランを作成している。ケアプラン更新時には、スタッフ全員の意見を必ず聞くようにしている</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成にあたり、ご家族にケアや暮らしの希望をお聞きしているが、ご家族からは、具体的な希望等はあまり聞かれないようだ。計画書には「ご家族の意見」の欄を設けておられ、ご家族には作成した計画書を見ていただいてから、具体的な要望をお聞きすることも多い。計画は、全職員から意見を聞き、ご家族の希望を踏まえて、管理者が「まとめる」仕組みになっている。計画の見直しは、介護度2・3の方は3ヶ月に1度、介護度4・5の方は6ヶ月に1度とされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 関わった職員が、個人記録に記入し、職員間で情報を共有し実践等に活かしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 当法人の四事業所を行き来し交流をはかったり、クラブ活動の生け花や書道に参加していただいている。重度やターミナルが近い方には、24時間対応の医療機関への引き継ぎや、その時に合わせたサービスを提供している</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 年2回の防災訓練時に消防署員の協力を得た。地域の防災士にも来ていただいた。地域の商店利用などで繋がりが持てるように支援している。毎月1回近所の方が、ピアノの演奏に来てくださる</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 3週間毎に主治医による往診があり、気になる事柄を往診ノートに書き込みアドバイスをいただいたり、必要に応じて血液検査や健康相談をしていただいている。重度やターミナルケアの方には、訪問診療との連携も取れている</p> <p>(外部評価) 内科の協力医療機関をかかりつけ医とされる方は、3週間に1度、往診がある。24時間終末期医療の対応をしてくださる協力医療機関をかかりつけ医とされる方は、2週間に1度、訪問診療がある。その他の専門医等を受診される場合は、基本のご家族が付き添われている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の変化や気になること等は、看護職員にいつでも相談でき、その時の状態に合わせて対応できるようにしている</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) ご家族と共に病院関係者との情報交換や相談に努めている</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族の希望をお聞きし、管理者と看護職らが中心となり、話し合いを持ち、職員全員で方針を共有するようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、入居時「急な場合どうされますか」と、体調が急変した時の対応について、ご家族にお聞きするようにされている。ご家族からは、「最期まで看てもらえますか」と聞かれることもある。事業所では、医療行為が必要でなければ、事業所で看取り支援ができることを説明しておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 主治医及び看護師による内部研修があり、職員は実践力を身につけている。今年度は、消防署員による救命救急時の対応の仕方を学んだ	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行い、地域の方に避難の場所の確保など協力していただいている。法人内にも防災士がおり、地区の防災士のアドバイスもいただいた	地域の協力者と話し合い、それぞれの役割を具体的に決めておかれたり、一緒に避難訓練を行ってみる等してはどうか。いろいろな体験を重ねられ、地域の方達との協力体制を作っていかれてほしい。
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、併設する小規模多機能事業所と合同で、避難訓練を実施されている。6月に行った火災想定での避難訓練時は、公民館長に見学をしていただいた。自然災害時等において、事業所は、地域の集会所が避難場所となっているが、距離があるため、いざという時は、近くの公園に避難するように決めておられる。公園には、日常的に散歩に出かけておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は法人の接遇態度、援助のチェックポイントに基づき一人ひとりの思いを大切に、サービスの提供を行っている。介助の後には、必ず感謝の言葉を伝えている。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から「やさしく、ていねいな介護を実践すること」又、「ありがとうございます、とお礼の言葉を伝える」ということを職員に話されている。調査訪問時、職員は、利用者に声かけする時、目線の高さを合わせて、ゆっくりと静かな声で話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 天気がいい日には戸外へ出たり、思い思いに過ごして頂いている。衣服や飲食物なども、そのつどご本人の思いを尊重している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者ご自身が、散歩に行かれたり、お部屋で休まれたり、と、臨機応変にその方に合わせた支援をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分でされる方には声掛けや見守りをし、そうでない方にも外出やイベント時などに、その方に合ったおしゃれをしていただいている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と一緒に台所に立ち、野菜切り、盛り付け、片付けなどしていただいている。できない方には、献立の食材を手に持ってもらったり、匂いをかいでいただいたりと五感を感じていただいている	
			(外部評価) 昼食のおかずと、夕食のメインのおかず一品は、法人の厨房で調理されたものが届くようになっている。その他のものは事業所で作っておられ、利用者個々の食形態に合わせ、おかずを刻んだり、ミキサーにかけてたりと手を加えておられる。月に一度「食のイベント」として、「食事で変わったことをやってみよう」「外に出て食事をしよう」と取り組まれた。事業所の中庭で、焼きそばを焼いて青空の下で食事を楽しまれたり、お好み焼きの具材をすべてミキサーにかけてから、ふわふわになるように焼いて、ミキサー食の方もみなと同じものを食べられるように工夫された。事業所では、「何を食べているのかわかる介助」に努めておられ、ミキサー食の方には、メニューを知らせ、又、重度で目を閉じていることの多い利用者には、匂いを嗅いでもらってから食事できるよう支援されている。介護度が重度の方が多くなり、食事の準備等を職員と一緒に行うことが段々難しくなっているようだが、野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳、職員が洗った食器を拭く等の場面を作っておられる。時には味見をしていただくこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康チェック表で摂取量を確認し、個々に合わせてミキサー食にしたり、トロミやゼリー、補食なども用意し提供している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分でされる方には声掛けや見守りをし、そうでない方には介助させていただいている。訪問歯科の口腔ケアを受けておられる方もいる	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 日中は、おおかたトイレで排泄していただいている。一人ひとりの状態を把握している</p> <p>(外部評価) トイレでの座位保持が難しい方は、日中も紙おむつを使用する方がおられるが、ほとんどの利用者は、日中は布パンツにパッドを使用して過ごされている。トイレには、便器に座ると、身体をあずけて前傾姿勢がとれるようなテーブル(ファンレストテーブル)が取り付けられており、使用する方もおられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 朝食に芋粥を提供し、牛乳、ヨーグルト、食物繊維の多い食品を積極的に取り入れ、水分摂取も一人ひとりに合わせ、家事、体操、散歩などの軽い運動で自然排便に努めている。足こぎ車椅子を活用しておられる方もいる</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) その時の状況をふまえ、一人ひとりに合わせて支援している</p> <p>(外部評価) 午後からが入浴の時間となっており、利用者がそれぞれに週3回入浴できるよう支援されている。浴槽は、ユニバーサルデザインの機械浴槽を設置されており、膝が曲がらない状態の方もシャワーキャリーで浴槽に浸かることができ、同じ浴槽で、利用者がまたいで浸かることもできる。事業所では、液体等のボディソープは使用せず、石鹸を泡立てて普通のタオルで身体を洗うようにされている。皮膚の敏感な方で、洗髪も石鹸を使う方もいる。入浴後、乾燥肌の方には、ベビーオイルを塗る等されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中、日光浴や散歩、軽い運動を行い、夜間安眠できるように支援し、また居室内の温度や湿度にも気を付けている。日中も、一人ひとりに合わせた休息をしていただいている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関しては、医師や看護師から説明を受け、職員全員が把握し、配薬、服薬のチェックも複数の職員で行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの趣味や特技をいかした、一人ひとりに合わせたケアプランの実践を通し日々楽しく過ごせるように支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 花見、遠足、運動会等法人の行事には、ご家族の参加もある。ご家族の協力を得ながら、馴染みの美容室にも定期的に出かけたり、一人ひとりに合わせた支援をさせていただいている	
			(外部評価) 気候のよい時期は、近くの公園まで毎日のように職員と一緒に散歩されている。ひとりで歩ける方は、食材の買出し等、スーパーに職員と一緒に出かけられる。隣接する事業所や、少し離れた事業所まで出向き、お茶をごちそうになる等して交流されることもある。定期的に、ご家族もお誘いして「遠足」に出かけておられ、11月に、松山城へ「遠足」に出かけた際には、リフト付きのバスを借りて出かけられ、車椅子を利用される方も参加できるようになり、管理者は「出かける範囲が広がった」と話されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) スーパーなどに買い物に行った時の支払いは、できるだけしていただいている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご自分でできる方は、いつでもしていただき、できない方の支援として、贈り物などを、お話ししながら目の前で開け、手紙を読ませていただき、お礼の電話をかけ、声を聞いていたり、手紙の代筆をさせていただいている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 心地よい音楽をかけ、季節の花や飾り物と、暖炉の温もりを感じ居心地良く過ごしている</p> <p>(外部評価) 利用者が生けてくださった松や南天、金魚草のお花が玄関に飾られていた。居間の大きな窓からは、自然の光が入り、昼間はほとんど電灯を点けずに過ごされている。居間には、薪ストーブが整備されており、薪をくべて暖をとっておられた。有線放送のクラシック音楽を静かに流して、利用者、職員ともに履物をはかず過ごされている。昼食後には、ソファには、気の合う方が一緒に座り、職員も交じりおしゃべりしておられたり、本を読む様子もうかがえた。食卓の椅子は、利用者個々に合わせて「座りやすい椅子」が用意されており、中には、ご本人が椅子の向きを変えやすいよう、職員がキャストを取り付けているものもみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご自分専用の居場所があり、また好きなところで過ごせるように暖炉やソファがある</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 基本的に居室作りは、ご家族にお願いしている。ご家族の写真や趣味の品を飾っている。また担当職員が、季節に応じた飾りなどを工夫している</p> <p>(外部評価) 毎月25日には、ご家族に参加していただく「掃除デー」を設けておられる。ご家族の高齢化等で、決まった日に参加する方は少なくなっているようだが、日を替えて来られる方もいる。昼食後、居室のベッドで横になってテレビを見る利用者がおられ、職員は、ご本人のお好きな番組名と放送される時間を書いた紙をテレビの横の部分に貼って、ご本人に分かるようにされていた。壁に貼ってあるカレンダーには、ご家族によって「学校が始まる日」等、ご家族の予定を書かれていた。ご家族の写真や表彰状を飾っている方もおられた。「お花クラブ」で生けたお花を飾っている居室もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 共有の場所を真ん中にし、両側にそれぞれの居室がある。場所の確認として、貼り紙をしている。居室には、それぞれ手作りの表札をつけている</p>	